



6月と12月の年に2回交尾の時期があり、妊娠期間は74日、産まれた子が巣から顔を出すのは生後40日くらいです。目の大きさや間隔で親子の違いが分かります。



産まれた子が巣から出るようになるのは生後2~3ヶ月くらいです。巣から出るようになって、しばらくは親と一緒に行動します。授乳や餌のとり方を教えている姿を見られる時もあります。

観察会で紹介した写真・動画はこちら
からご覧になれます。

 takuya.mori.nature



ムササビ観察のお願い・ご注意

- ・ムササビが警戒するので、おしゃべりは控えてください。
- ・ムササビに向ける赤いライトは担当指導員だけが照らします。
- ・手持ちのライトは移動する時のみ、足元にだけ照らしてください。
- ・ヘッドライトは頭から外し、手で持って使ってください。



NPO法人 東三河自然観察会
<https://www.higashimikawa-shizen.jp/>



この事業は「あいち森と緑づくり環境活動・学習推進事業交付金」
を活用しています。

2022/11/19

ムササビ 財賀寺自然観察会



NPO法人
東三河自然観察会

ムササビ

齧歯目リス科

学名: *Petaurista leucogenys*

英語名: Japanese giant flying squirrel

- ・夜行性で皮膜を利用して滑空する樹上性哺乳類
- ・日本固有種で、本州、四国、九州に生息
- ・日本全国では普通種、愛知県では準絶滅危惧種に指定



5mmくらいのまん丸のうんちをします。意外に大きなパラパラという音が聞こえます。夜の人通りの少ない場所で砂を撒くような音が聞こえるので、砂かけ婆の正体はきっとムササビです!



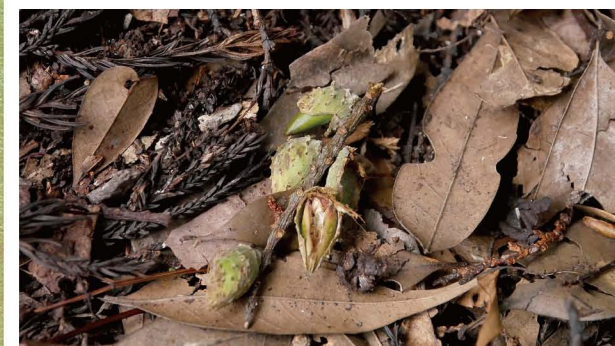
ムササビが生息している場所であれば、太いスギやヒノキの根元で探すと糞が見つかります。果実や土塊との違いは、潰すと中が細かい繊維質であることで確認できます。



1年中いつでも、日の入後20~30分くらいに巣から顔を出して、しばらく様子を伺ってから出てきます。出巣後は近くで糞をしたり、毛繕いしたりして、食事に出かけます。



木の芽や葉、どんぐりなどを食べる植物食です。枝先を噛み切って、手で持って食べます。切り口をよく見ると、斜めにスッパリ切れているのがわかります。葉は畳んで食べることもあります。



ムササビが生息している場所であれば、木の下で食痕を見つけることができます。きれいに食べ切ることはあまりなく、畳んで食べた葉はV字になっていたり、丸く穴が空いています。



皮膜の付き方、足の位置、特に前足の位置に注目してください。滑空は高い木のてっぺんからすることが多いです。てっぺんに姿が見えて、鳴き声が聞こえたら滑空の合図です!



巣の多くは樹洞です。アオゲラの巣穴などをかじって大きく広げて自分の巣にします。いくつも巣を持つので、せつかく作ってもあまり使わないことも多いです。



屋根裏や室外機の裏、戸袋などの意外に身近なところにも巣を作ります。ここはポリカ庇に巣材を置いているので強風で飛ばされますが、くじけず巣材を運んできます。お気に入りなんですね。